

かみ さむらい づか こ ふん
上侍塚古墳

おわたわら ゆづかみ
栃木県大田原市湯津上地内

R6 第1 回現地説明会資料 令和6(2024)年6月29日(土)

栃木県生活文化スポーツ部 文化振興課
宇都宮市埴田1-1-20 TEL 028-623-3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474 TEL 0285-44-8441
<http://www.maibun.or.jp>

栃木県では重要遺跡を調査研究・活用する「いにしへのとちぎ発見とき土器わく湧くプロジェクト」事業として侍塚古墳の調査を進めています。上侍塚古墳の調査は令和6年度で4年目となりました。5月から始まった調査成果をご紹介します。

1 トレンチ調査の状況

a S60 西斜(前方部西)トレンチ

墳頂から裾部にかけてのトレンチです。転落した葺石(古墳の表面を覆う石)が墳丘の上位と中位から見つかっています。中位の葺石は上から転落してきたものと考えられます。

前方部の墳丘は上・下2段に造られています。上の段だけに葺石があることが分かりました。

後方部は上・中・下3段で、上・中段と下段の一部に葺石があります。



ローム混じりの黄色土と黒色土を交互に盛っています。



S60 西斜・墳丘の盛土 上から転落した葺石の様子(西から)

b S72 西斜(前方部西)トレンチ

墳丘の裾部の確認のためのトレンチです。裾部は周溝に向かって緩く傾斜しています。

裾部付近の墳丘から、3個以上の壺型土器が潰れた状態で出土しました。



S72 西斜・土器の見つかった様子(東から) 3個以上の土器が出土しています。(南から)

c S60 東斜(前方部東)トレンチ

墳頂から裾部にかけてのトレンチです。墳丘の上位には葺石が見つかりました。

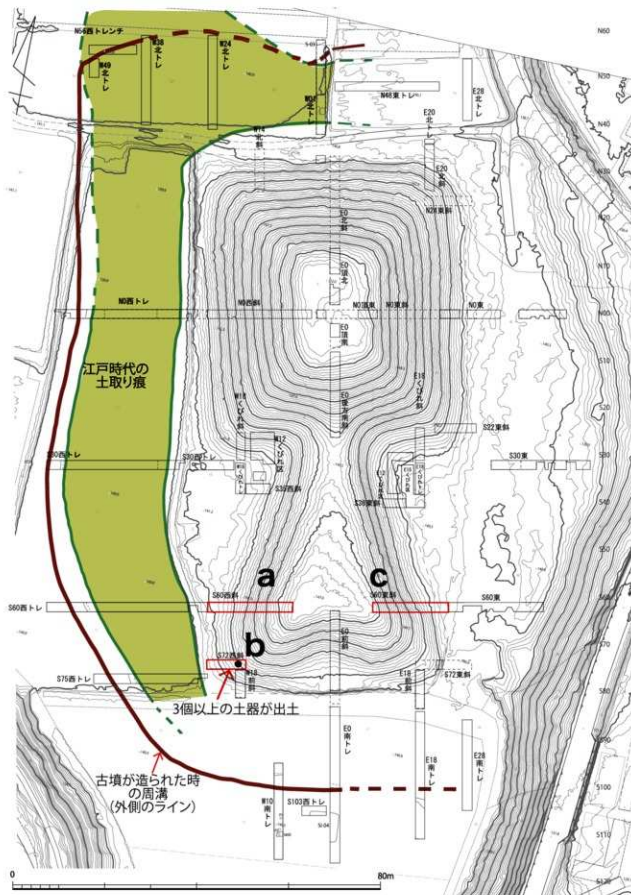
ここからは、前方部の頂上に置かれていたと考えられる壺型土器の破片がたくさん出土しています。

下位では墳丘の東側の裾部が確認されました。裾部は垂直に近い急な角度になっています。

裾部の端



S60 東斜・裾部の様子(東から)
手前の石は上から落下したものです



2 令和6 (2024)年度調査の目的

前方部の墳丘の葺石と段と裾部の状況を確認するため、継続して調査していきます。

また、後方部では、江戸時代の徳川光圈による調査の様子を確認するため、今後調査を行っていきます。